

「はい、ペンションアムールです」

「あの、予約をお願いしたいんですけど、空き状況を教えてくださいいただけますか？」

「はい、ありがとうございます。お日にちはいつでしょうか？」

「来月二十一日の土曜日から一泊二日なんですけど・・・」

「何名様ですか？」

「二人です」

「二名様ですね。二十一日の土曜日でしたら、バス、トイレ付きのツインのお部屋を

ご用意できますが・・・」

「宿泊料はいくらですか？」

「現在、空いているお部屋は一泊朝食付きで一〇〇〇円となります」

「では、予約をお願いします」

「ありがとうございます」

「夕食は付けてもらうことはできますか？」

「はい、ご用意できます。イタリア料理のコースになりますが、三種類ございまして、料金は二八〇〇円と三八〇〇円と四八〇〇円になっております」

「では三八〇〇円のコースでお願いします」

「かしこまりました。お食事に赤ワインか白ワインのボトルを一本サービスさせていただきます。ただいておりますが、どちらがよろしいですか？」

「赤ワインをお願いします」

「赤ワインですね、かしこまりました。それでは、お名前とご住所とお電話番号をお願いできますか？」

「秋庭敦夫(愛子)です。住所は厚木市岡田一―十一、連絡先は〇八〇一―一三六―八一一五です」

「確認させていただきます。お名前が秋庭敦夫(愛子)様、ご住所が厚木市岡田一―十一、ご連絡先は〇八〇一―一三六―八一一五ですね。宿泊日が一月二十一日から二十二日の一泊二日で、バス、トイレ付きのツインが一部屋。ご夕食は三八〇〇円のお料理で、お飲み物は赤ワインですね。ご夕食は六時半からとなっておりますので、その時間に間に合うようにお越しく下さい」

「わかりました・・・それから、もし都合が悪くなつてキャンセルする場合、キャンセル料はかかりますか？」

「ご宿泊日の一週間前からキャンセル料がかかります。一週間前ですと宿泊料金の三十％、五日前が五十％、前日が八十％、当日になりますと全額いただくようになっておりますのであらかじめご了承下さい」

「はい、わかりました」

「それでは、ご予約日の一週間前には秋庭様宛にペンションのご案内と宿泊申込内容の詳細をお送りさせていただきます」

「わかりました。では、当日お世話になりますますがよろしく願います」

「はい、お待ちしております。ありがとうございます。失礼致します」